

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実 施 報 告 書

HT27178 金沢コケツアー ～こけ庭を見て、さわって、作ろう！～



開 催 日： 平成27年11月21日(土)

実 施 機 関： 金沢工業大学(扇が丘キャンパスおよび
(実施場所) 金沢市内(旧中村邸、金沢神社、兼六園))

実施代表者： 円井基史

(所属・職名) (環境・建築学部・准教授)

受 講 生： 小学5・6年生13名、中学生3名

関 連 URL：

【実施内容】

参加者16名(小学5・6年生13名、中学生3名)を対象に金沢コケツアー(コケ庭散策およびコケの箱庭作り)を行った。天候は曇り、実施中の外気温は約15℃で、雨は降らずにすんだ。まず金沢工業大学扇が丘キャンパスにて、主に都市に生育するコケ植物について、基本的な生態、種類などに関する講義と、顕微鏡・ルーペを使った観察の実習を行った。次にバスで移動し、旧中村邸、茶室梅庵、茶室耕雲庵、金沢神社、兼六園を徒歩で回り、コケの種類・生態およびコケの庭と建築が織りなす景観を学んだ。その後大学に戻り、午後からは各自がキャンパス内でコケを採取し、自分で考えたデザインのコケの箱庭(またはテラリウム)を作製した。

<プログラムの運営で工夫した点および安全配慮>

- ・座学説明において、小学生にも分かりやすい言葉を用いた。また図入りの配布資料を用意した。
- ・室内の演習において、水をかけると葉が開くのが分かりやすい乾燥したスナゴケと数種類の顕微鏡、および人数分のルーペと霧吹きを用意し、コケに水をかけると葉が広がり色も鮮やかになる様子を観察した。
- ・フィールド街歩きの時もルーペと霧吹きは各自が携帯し、いつでもコケへの給水や観察を行えるようにした。コケに触って手触りを確かめた。金沢の歴史や風土も感じてもらうための説明も加えた。
- ・昼食は金沢工業大学の食堂で食べたが、参加者(小中学生)と主催側(教員および大学生スタッフ)が話をしやすいような座席配置や雰囲気づくりに配慮した。
- ・コケの箱庭を作るためキャンパス内でコケ採取を行なった。午前中に観察したスギゴケを要望した参加者のため、大学生スタッフの付き添いのもと探しに出掛けた。
- ・コケの箱庭(およびテラリウム)を作り終えたら、作品に名前を付けてもらった。名付けることで、作品にストーリーが生まれ、全員の作品を並べて相互に閲覧・鑑賞を行なった。
- ・街歩きでは、参加者がツアーの説明をしっかりと聞けるよう、また先頭と最後尾が離れることなどを考慮し、ゆるやかに3班に分け、部分的に班単位で行動するよう工夫した。また交通事故等がないよう、大学生スタッフが付き添いを行なった。

<当日のスケジュール>

- 9:10 23号館1階パフォーミングスタジオにて挨拶、自己紹介、プログラム概要、科研費の説明
9:20 講義 コケ植物の概要 都市に生育するコケについて
9:35 顕微鏡・ルーペを用いてコケを観察
10:00 バス移動
10:20 旧中村邸、梅庵、耕雲庵でコケ庭の観賞
11:10 金沢神社、兼六園でコケの観察
12:10 バス移動
12:40 金沢工業大学の食堂にて昼食・休憩
13:30 23号館1階パフォーミングスタジオにてコケの箱庭(またはテラリウム)の作製方法の説明
13:40 キャンパス内でコケの採取
14:00 部屋に戻り箱庭を作製
14:40 完成した作品とネームプレートで写真撮影、作品を並べ閲覧・鑑賞
15:00 修了式(アンケート記入、未来博士号の授与)
15:20 解散

<実施の様子>



円井准教授による講義



コケ植物の観察



金沢神社でコケ探し



兼六園でヤマトフデゴケの観察



コケの箱庭とテラリウムの作り方の説明



扇が丘キャンパス内でコケの採取



大学生スタッフと箱庭作り



受講者が作製したコケ庭



受講者、先生、学生スタッフと集合写真

<事務局との協力体制、広報活動>

事務局(研究支援課)との協力体制について、特に広報、当日の受付業務、会計に関する部分において、連絡を取りながら、準備や運営を進めた。

広報活動は、近郊の小学校、市役所、図書館、児童館、公民館に訪問し、イベント説明を兼ねながらポスター及びチラシを配布した。加えて、本学ホームページ、イベント紹介ページ「いしかわ未来のエジソン・サマースクール」、及び情報冊子「みまっ誌」にイベント開催情報を掲載した。

<今後の発展性、課題>

参加者のアンケートによれば、「とてもおもしろかった」15名、「おもしろかった」1名であり、「とても分かりやすいせつめいでコケについて知りたいという目的にぴったりだったので、またきかいがあったら是非さんかしたい」「こけについてよく知ることができた。こけの箱庭を作るのが楽しかった」などのコメントもあり、概ね好評であったように思う。課題としては、旧中村邸などのお茶室や茶庭で、魅力を伝える説明と時間が足りず、改善の余地がある。コケの箱庭作りは、小中学生にとって魅力があり、今後の展開の可能性を感じられた。

【実施分担者】

土田 義郎 環境・建築学部・教授

【実施協力者】 10名

【事務担当者】

大西 洋輔 研究支援部 研究推進課